

カトリック 大名町教会ニュース

DAIMYOUMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER

[ミサ時間] 主日：7時・9時30分/ベトナム語（第2・第4日曜日）：14時/英語：16時

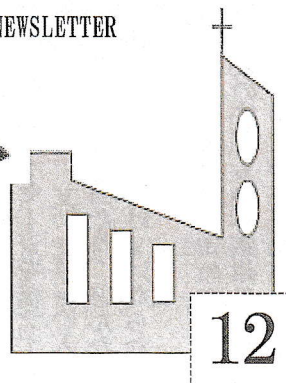
[ホームページ] <http://www.daimyomachi-c.or.jp/>

〒810-0041 福岡市中央区大名2-7-7 [巡] 能古島カトリック教会 ミサ（土）18時

TEL: 092-741-3687 Fax: 741-5107

〒819-0012 西区能古弁当 1621-12

発行責任者：中村 彰 神父



12月 待降節

福岡教区年間目標：出向いて行く教会となる

大名町教会年間テーマ：出向いて行く教会となる！

Becoming a Church of outreach

12月のお知らせ

- ◆3日（日）待降節第1主日
 - ・認知症サポーター養成講座 10時45分
- ◆6日（水）
 - ・中央区花いっぱい運動奉仕 13時
- ◆17日（日）待降節第3主日
 - ・ミサ後、大掃除

☆クリスマス夜半のミサ

☆クリスマスミサ

☆新年のミサ

※詳しくは、4面をご覧ください

ジョン神父の勉強会

- ◆キリスト教入門
 - 日程：毎週木曜日10時・19時
- ◆聖書の分かち合い
 - 日程：毎週木曜日14時

YOUTUBE

講座動画あります。



天には神に栄光 地にはみこころに叶う人に平和！



幼子イエスさまの誕生を
最初に伝えてくれた羊飼いたち！

ゆるしの秘蹟：希望される方は、司祭に直接ご相談ください。（定期：毎週土曜日10時～11時半）

クリスマスの 本来の意味

12月は主の降誕を待ち、また記念する月です。しかし、多くの人々は主の誕生を別の意味で受け入れる場合が多いと思います。例えば、クリスマスは赤い服を着ているサンタさんがプレゼントを配る日との認識などです。しかし、このサンタさんの由来は、聖ニコラス司教（4世紀）が貧しい人々のためにこっそり施しを行った話からきました。どなたか「サンタはなぜ赤い服を着ているのか。」と質問しましたが、それは20世紀あるコーラー会社のイラストレーターが描いた広告が原因です。このように現代のクリスマスに関するイメージは時代につれ、また商業的な理由により変化しました。ですが、わたしたちはこのクリスマスの本来の意味を思い起こす必要があります。みなさんはクリスマスツリーをご存じでしょうか、その意味はご存じですか。クリスマスツリーは「創世記の命の木」を象徴します。飾り物にもいろいろな意味がありますが、星はイエス様の誕生の印、ランプ（昔はろうそく）は光として来られるイエス様の印、そして丸いものはパンでご聖体の印です。ですが、残念ながらこの本来の意味を知ってそれを飾る人はどのくらいいるでしょうか。時代の流れによってクリスマスはもはやイエス・キリストの誕生を祝う日という本来の意味は薄くなり、だんだん一つのイベントに過ぎないという認識が強められるようです。クリスマスの本来の意味を思い起こし記念しましょう。

ジョン・ウオンチヨル 神父

ヨゼフ アベイヤ司教さま大名町教会を公式訪問

11月19日(日)、大名町教会をヨゼフ・アベイヤ司教さまが公式に訪問くださいました。



待ちわびるなか、徒歩で到着。

当日、教会前には朝早くから信徒の皆さんが集まり始め、司教さまが到着される時には40人を超える人達で迎えられました。

司教さま主司式によるこの日のミサ福音は、マタイ25章タラントのたとえが読まれました。

説教では、いつも目覚めていること。神様から頂いている恵みに感謝せず、何もしないことはいけなないこと。神の国を目指して福音に導かれて歩むことが大切であるというメッセージを伝えてくださいました。又、「貧しい人の世界祈願日」に当たり、どんな貧しい人にも顔を背けてはならないと話されました。

ミサの最後、司教さまに教会学校の子どもから感謝の花束が贈られ、中村彰主任司祭から感謝の言葉が伝えられました。

ミサの後、教会の評議員との懇談の時間が持たれ、自己紹介とそれぞれが担当している役割や現在の課題について報告しました。司教さまは一人ひとりの報告を共感をもつて聞いてくださり、和やかな中にも真剣な交流の時間となりました。

司教さまの言葉から特に印象に残ったことは次のようなことでした。

宣教司牧方針を作るために費やした二年間のプロセス、それはトップダウンではなく、信徒一人ひとりの意見や思いをくみ取りながらまとめることを大切にした歩みであったこと。そして、この宣教司牧方針が今後、数年にわたる実践を通して一人ひとりの信仰が深められ、小教区の活性化につながってほしい、という強い願いが伝わってきたことでした。



子どもたちから歓迎の花束

お話を聞きながら、結果を急ぎすぎるのではなく、プロセスを大切に歩むことこそが、福音を生きることに通じていると受け止めました。シノドスのテーマである「共に歩む教会」としての在り方をみんなで深めていきたいと心を新たにしたい一日でした。

(信徒会長 パウロ 吉田 俊雄)

喜び 二人の赤ちゃんの洗礼式



渡邊凪ちゃんご家族



川上樹ちゃんご家族

11月5日

(日)のミサの中で、二人の赤ちゃんの洗礼式が行われました。大名町教会共同体に新たな家族を迎えられたことを神に感謝し、ラファエル渡邊(なぎ)ちゃん、アシジのフランシスコ川上樹(いづき)ちゃん、二人の成長をご家族と共同体も共に喜び、見守っていきましよう。

子どもたちの笑い声とアンジェラスの鐘

喜び 十人を祝った七五三



11月19日

(日)のミサの中で、10名の子どもたちの七五三の祝福式が行われました。これから神様の愛の中で、家庭の中で、教会共同体の中で、キリストの背丈に近づくまでに、体も心も成長していけますように。保護者の一言「特別な祝福とみなさまからのお祈り、温かい言葉をいただき、とてもうれしかったです。」



Niwat Tangkhirikhetさん

日本で働いています。タイから仕事で日本に来ているニワさん。ミサの後、毎週、一階の男子トイレを掃除してくださいっています。

月曜日から土曜日まで、朝から夜まで、自動車の部品を作り、日曜日は教会でミサに与り、午後から日本語学校に通っています。掃除の後、一階ロビーで日本語学校に行くまでの間、日本語を独学されています。掃除のお礼の言葉とともに日本語上達のために、話しかけてみてください。

教会学校

福岡大空襲についての学習会

10月15日(日)の第二ミサ後、「福岡大空襲に関する学習会」を行いました。これは、ウクライナ支援の活動をするに当たり、戦争の実態を知り、感じてもらうためです。

当日は、福岡市の簗子小学校で作成されたDVDを見ました。このDVDは、当時の小学校区に住んでいた子どもで、福岡大空襲を体験された方の証言を中心に編集されたものでした。自宅が焼け落ちた方、空襲の中で家族と離れ離れになり、その家族が亡くなった方、亡くなった家族を小学校の校庭で茶毘に付された方などの話が出てきました。焼夷弾で夜が昼間のように明るくなったこと、港につないであつた船が炎上しながら湾内をぐるぐると回ったこと、自宅や近所の家、木レンガという材木を敷き詰めた道が燃えたこと、命からがら逃げ延びて親戚の方と家族の遺体を焼いたことなど、悲惨な体験を知りました。簗子小学校は統合されて今は、なくなっています。

教会学校の子どもやスタッフだけではなく、一般の信徒も参加し、40人程度が視聴しました。

小学校三、四年生のクラスでは、振りの学習をしました。子どもたちからは、「近くで起こったことなので、身近に感じた」「暗かった」「歴史がわかった」「火の海」といった感想が出されました。空襲で家族や友達を亡くし、大切な人を失い、その庇護を受けることができなかった当時の子どもたちが、空襲の後にどのような生活を送ってきたかも考えてもらいました。(パウロ 久志 昇)

宣教部 分かち合いの集い

第一回「新たな一歩を踏み出す」

10月29日(日)ミサ後、宣教部主催の「新たな一歩を踏み出す」をテーマにDVD鑑賞と分かち合いを行いました。

先の10月1日(日)、福岡教区信徒協が主催、「聖テレジア(テレーズ生誕150年)」の記念講演会。DVD「聖テレーズ」の鑑賞と、中川博道神父(男子洗足カルメル会)の講演。この日、中川神父は「テレーズの生涯はまさにキリストの愛を生きる、宣教そのものでした。3%の人がこの愛に生きる決心をし、動き出せば社会は必ず変わります。」と力強く話されました。この言葉に感銘を受け、大名町教会信徒のみなさまと是非、分かち合う機会を持ちたいと、再度の「聖テレーズ」のDVD鑑賞と分かち合いを行いました。(DVD鑑賞43名)(分かち合い32名)。

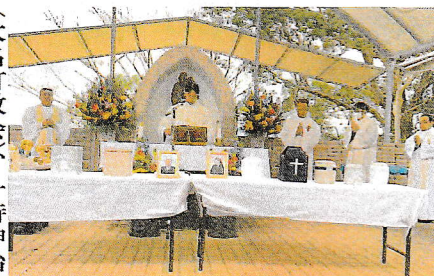
コロナ後、久しぶりの集いとなりました。パン、お茶を頂きながらグループに分かれての分かち合いは、お互いの自己紹介に始まり、テーマから少しそれて世間話になったグループもありましたが、お互いを知り合う良い機会になったと思います。お互いを分かち合い、自由に会話できる環境から大名町教会に来ることが楽しくなる。

宣教(キリストの愛を述べ伝えること)の「新たな一歩を踏み出す」気づきになればと思います。宣教部では、今後もこのような集いを続けてまいりたいと思います。みなさまどうぞよろしくお願い申し上げます。(宣教部 マリア 目良信子)

死者の月

教区和田墓地でミサ

11月12日(日)14時から死者の月恒例の教区和田墓地ミサが行われました。



この日、和田墓地納骨堂で、死者ミサと10月24日に帰天された洗礼者ヨハネ深堀勝人神父をはじめ、計10柱の信徒の納骨式が行われました。主式は桑原篤史神父(笹丘教会)で、中村彰神父(大名町教会、十時伸治神父(光丘教会)、田中重治神父(大牟田教会)、寺浜亮司神父(吉塚教会)、ジョン神父(大名町教会)の六人の共同司式で執り行われました。

4年ぶりのミサで、和田墓地納骨堂内に信徒の参加者130名の聖歌が響き渡りました。当日は朝から小雨、墓地解放時には雨は上がりましたが、強風と寒い追悼ミサになりました。

この納骨堂には、一号館で600室、二号館で300室、共同納骨所600柱あります。大名町教会所属の信徒では一・二号館奉安室で256柱を使用、共同納骨所申し込みは数名です。今回の訪問者の中で、大名町教会信徒は30名くらいでした。ミサ参加者が年々少なくなっています。10月29日の一般清掃の参加者も墓地委員だけで、大名町教会からの参加はありませんでした。今後、多くの参加をお願いします。

和田墓地納骨堂管理委員会

(パウロ 豊嶋 司)

ガザ人道支援

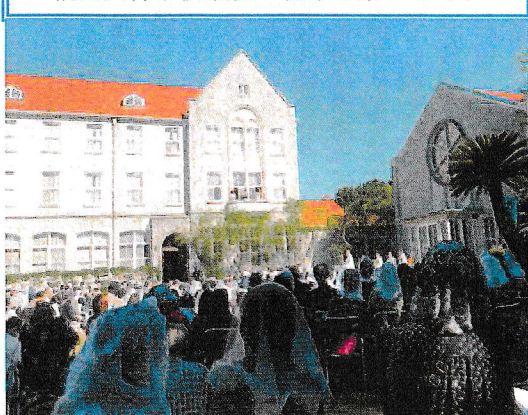
2022年2月24日に始まったウクライナ戦争の終焉を祈っている中で、今年の10月7日にパレスチナで戦争が起きてしまいました。

毎日、ガザの人々が爆撃で殺されたり、傷つけられたりする惨状を見て、強く「平和を」祈ると共に、ガザへの支援の一部になればと、二回のミサ後に、みなさまに募金と呼びかけました。



14万1158円の支援金が集まりました。カリタスジャパンを通して、ガザに送られます。ご協力ありがとうございました。

福岡大神学校最後の召命の集いでミサ



宣教司牧評議会

(11月12日)

1 議題

- (1) アクション団体の承認申請について
・2021年11月から活動を続けている「二階での案内活動」を正式に「教会一階案内所グループ」としてアクション団体に申請したい旨提案があり承認された。
- (2) 司祭室リノベーションについて
・営繕部より、司祭室(1)、(2)、(3)、会議室(1)、(2)の床、壁、カーテンに関するリノベーションについて提案があり承認された。
- ・見積金額 ¥860,000円。施工時期 2024年2月中旬頃。
- (3) 11月26日(日)に、歳末助け合い街頭募金を教会行事として行うことが承認された。
- ・目的・ウクライナ支援
・募金の送付先・カリタスジャパン
- (4) クリスマスカードの作成と作成費用の承認
・クリスマスカード作成と枚数(2,000枚)、費用及びデザイン料合計25,740円は承認された。
- (5) 行事部・宣教部支援方法の在り方について
・行事部・宣教部の活動支援を強化するため、先の予定行事を開示してできる人ができる時に奉仕参加できるよう呼びかけを行うこととした。
2. 報告事項
(1) 立て看板・掲示板検討委員会の現状報告
・委員会は過去2回実施し、業者2社に

提案を依頼して検討中である。

- ・営繕部から演説評議員が委員に加わることになった。

(2) ホームページの現状説明

- ・大名町教会のホームページの現状を確認し、今後の方向性に対して関係者が集まって話し合うこととした。

(3) アベイヤ司教様公式訪問(11月19日)について

- ・当日、評議員を中心に迎え、ミサ後に評議員の自己紹介ほか司教さまとの交流を行う。

3. 各部の報告事項

① 典礼部から (詳細は、左記の表)

② 営繕部から

- ・営繕部・施設管理部の定例会議及び軽微な修理完了の報告があった。

③ 総務部から

- ・ジョン神父様のベッドのやり替えについて報告があった。

④ 宣教部から

- ・聖テレズ生誕150周年記念講演会DVD鑑賞後の分かち合いについて

大名町教会11月の現勢

【幼児洗礼】おめでとう! (二両親)

11月5日

ラファエル 渡邊 風

(渡邊 修武/アガタ 渡邊 咲子)

アシジのフランシスコ 川上 樹

(川上 陽介/幼きイエズスのテレジア 川上 文香)

【転入】ようこそ

ヨセフ・インマヌエル 千葉 兆/マリ

ア 千葉 和代(浄水通より)

【結婚】おめでとう! ございます

11月29日

ドミニコ 目良 海斗 古木 若菜

報告があった。

⑤ ふれあいの集いから

「お口の健康」で横田さんの話があった。

4. その他

① 世界宣教の日献金(10月22日)

39,860円の実績報告

② 西原米の販売及び受け渡し体制についての報告があった。

わが家の信仰伝達

時代の変化により少子化が進んでいるように感じます。教会も例外ではなく、以前より子どもが少なくなりました。今も昔も子どもを教会へ通わせることは大変なのだろうと思います。

教会へ通わせたいけど事情があったり、子どもが行きたくないと言ったりと様々な理由があります。休みが続くと、また受け入れてもらえるのか等々、心配事が増え、教会から遠ざかってしまっています。

しかし、そんな心配も教会へ行ってみると、優しく受け入れてもらい不安はなくなるものです。

そこで感じるのは、すべての子どもは教会共同体の子どもであること。同年代の仲間や親以外の大人との交わりの中で信仰を感じることを。そして神を愛し、隣人を愛することを学びます。

子どもたちには教会へ通い、ミサに参加し、まず自分のできることをやってみようとして話しています。どんな小さなことでも、自分が必要とされていることに気づくことで喜びに変わるからです。

ミサ後、待者をしていた子どもたちが「ありがとう」って言われたよ。」と話すと、大満足の笑顔が物語っています。

わが家の信仰伝達は、信仰の取り組みやすい環境を作ってあげること。なぜ教会へ行くのか目的を持たせること。教会共同体の中で、自分の役割を果たすことのできる喜びを伝達することだと思っています。

(フランシスコ・ザビエル 森 謙次)

主の降誕祭と年末年始ミサ時間

- I) 12月24日(待降節第4主日ミサ)
・7時・9時半
・9時半ミサ後の作業について説明。
- II) 12月24日(日)主の降誕夜半ミサ
・18時半:外階段にてクリスマスキャロル、オルガン~教会学校。
・19時:アベイヤ司教司式・動画配信
・大、小聖堂着席のみ。立席は無。
・満席になり次第1階講堂へ案内。
・21時:ミサ前の座席案内は募集。
- III) 12月25日(月)主の降誕日中ミサ
・7時
・9時半(ミサ前の座席案内は拝領時誘導は募集)
・能古島 15時・英語ミサ 16時
・ベトナム語ミサ 19時
- IV) 12月31日(日)聖家族の祝日ミサ
・7時
・9時半(アベイヤ司教司式)
・英語ミサ 15時
- V) 2024年
・1月1日(月)神の母聖マリアミサ
・10時(アベイヤ司教司式)
・ベトナム語ミサ 13時
・能古島 15時・英語ミサ 16時

編集後記

神様のお恵みとみなさまのご支援のおかげで、教会ニュースを発行できました。ありがとうございます。T・J